

# 研 修 報 告 書

令和 6 年 10 月 20 日

長浜市議会議員 高 山 亨 様

長浜市議会議員 松 本 長 治

私が出席した次の研修視察の結果について報告します。

## 記

1. 研修等名 令和 6 年度 会派視察研修
2. 研修期間 令和 6 年 10 月 7 日 (月) ～ 10 月 9 日 (水)
3. 研修場所及び目的
  - 「まち・ひと・しごと創造ステーションについて」 宮城県利府町
  - 「大川震災伝承館・南三陸 311 メモリアルについて」 宮城県石巻市・南三陸町
  - 「南三陸病院の開院までの経緯について」 宮城県南三陸町
  - 「道の駅平泉世界遺産ガイダンスセンター・平泉文化遺産センターについて」 岩手県平泉町
4. 調査内容感想等
  - ・研修の目的

### 【まち・ひと・しごと創造ステーションについて】

2016 年 11 月 19 日に OPEN した公共施設「利府町まち・ひと・しごと創造ステーション「tsumiki」。  
この施設がどのようにしてでき、どのように利用されているか、住民、特に若い方々の力を活用し  
て出来上がった施設と、そのコンセプトについて学びたいと思います。

### 【大川震災伝承館・南三陸 311 メモリアルについて】

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃、三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東 130km 付近で、深さ約  
24km を震源とする地震が発生。その後、この地震による原子力発電所事故という、未曾有の被害  
となってしまいましたが、被災地では当時の経験を次代に継ぐため、丁寧な取り組みをされています。  
私たちも、その教えをしっかりと自分事として生かせるよう、伝承館やメモリアルから防災・減災につ  
いて学びたいと思います。

### 【南三陸病院の開院までの経緯について】

長 浜 市 議 会

「志津川病院」という南三陸町で唯一の総合病院が、震災の津波で5階建ての建物の4階まで水に浸かり病院の建物は解体。仮設の診療所などで診療を続けてきましたが、11月に町の高台に新しい病院「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」が完成しました。

この新病院の建設費用約56億円のうち、約4割に当たる22億2000万円を台湾から寄せられた義援金でできない建設されたとのこと。まさにそこに至る経緯について大変興味がありましたので、ぜひしっかり学びたいと思います。

#### 【道の駅平泉世界遺産ガイドセンター・平泉文化遺産センターについて】

平泉中尊寺の魅力をどのように紹介し、歴史や文化をどのように伝え、繋いでおられるのでしょうか。、平泉という地で栄華を誇った、藤原三代の活躍の様子を、また醸成された文化を、どのように紹介されているのか、学びたいと思います。

#### ・研修内容

#### 【まち・ひと・しごと創造ステーションについて】

仙台市の近くに位置する利府町ですが、JR東北本線利府駅前に建てられた施設で、ユニットハウスを活用し、市民活動、コミュニティビジネス、まちづくり全般の支援を行うほか、カフェとしても利用されています。

この施設の特徴は、学生や一般市民の方が計画段階から参加し、作ってこられたことです。宮城大学の学生や町民の方、職員も一緒になって、町が抱える難しい課題を解決するための施設を、自分たちの手で作り上げようと何度もワークショップなどを積み重ね作り上げられたそうです。設計に関することから条例に盛り込む文言まで、幅広く話し合いをされたとお聞きし、特に愛称に『tsumiki』が選ばれた経緯のお話などからも、興味ある議論がされたと感じます。

また、ユニットハウスの外に設置されたウッドデッキは、自分たちの手で制作されており、非常に面白いと思います。

現在、この『tsumiki』を主に利用されているのは、

- ・ 仙台・松島エリアへワーケーションに来られる方
- ・ 電源・フリーWi-Fi完備のスペースをカフェ機能付きで利用したい方
- ・ 町内のイチオシ商品やおすすめスポットなどの情報収集がしたい方
- ・ 公共交通のりつぎのスキマ時間を活用したい方
- ・ まちづくりに興味がある方

『tsumiki』は、ワークスペースとして、カフェとして、起業・創業などの相談の場として、個人、団体を問わずだれでも利用できるということで、コンテナ建築としたことで工期と工事費用を大幅に圧縮。4つで正方形となる16の二等辺四辺形テーブルと家具群は、施設の特徴をつかさどっているとの説明でした。

#### 【大川震災伝承館・南三陸311メモリアルについて】

津波により、大川小学校の児童・教職員84名、大川地区全体で418名の方々が犠牲となりました。犠牲者の慰霊・追悼の場とするとともに、震災被害の事実や、学校における事前防災と避難の重要性を伝えていくことを目的にされた施設で、震災前後の写真やパネル、

地域模型、実物資料が展示されています。また、当時視察に伺った時には、散乱したままであった机や棚などは撤去されているものの、その他はあまり手をかけられてないため、当時の津波の威力を、今でも実感することができます。災害の前の地域の様子との比較が分かりやすい点や、災害の起こった時間帯により、また対応の判断により、結果は大きく変わることを伝えていただいていると感じます。

私がここに来させていただいたのは4回目となりますが、何度来ても学ぶべきことがありますし、今なお多くの方が来られている様子を見させていただき、風化することのない記録と記憶として、私たちに伝え続けてくださっているのだと強く感じます。

南三陸311メモリアルは、当時の南三陸町役場周辺に設置されており、東日本大震災に関する基本情報や、後世に伝え継ぐ地域住民の証言等の展示をはじめ、シアター、アート展示がされています。周辺には震災遺構・旧防災対策庁舎のある南三陸町震災復興祈念公園があり、その当時の様子を、ご自分の被災体験と共に、南三陸町の三浦勝美さんに案内していただきました。

地震直後の役場の皆さんの行動や、避難の状況、ご自分が津波に流されながらも運よく流されてきた昼にしがみつき、なんとか命をつなぐことができた経験談や、防災行政無線で住民の避難を叫び続けた女性のお話など、災害時の生々しい記憶を語ってご説明いただきました。

南三陸311メモリアルの展示計画に当たっては、南三陸町の住民が、あの日体験した厳しい現実や自然災害の理不尽さ、失われた多くの命に向き合っていただき、「もし自分だったら災害時にどうするだろう」と考えていただくための工夫がされているとのことでした。

#### 【南三陸病院の開院までの経緯について】

東日本大震災の大津波が町を襲い、志津川も歌津も街や家並みをことごとく失います。志津川の街には、地域医療の拠点施設だった「公立志津川病院」があったとのことですが、高さ15mの大津波は、5階建ての病院の4階部分にまで到達し、院内にいた多くの入院患者や職員が死亡または行方不明になりました。

震災発生から18日後の3月29日、病院を失った南三陸町にイスラエルの医療チームが支援に来てくださり、町の総合体育館「ベイサイドアリーナ」の駐車場に、栗原市からの支援によるプレハブの診療所が開設され、日本人医師の指導のもと、診察が開始されました。

また、被災地で仮設診療所が開設されたのは南三陸町が初めてとのことだそうです。

町内の医師、東北大学病院、「国境なき医師団」の医師らは、無償供与された医療機器等を使って「公立志津川病院仮設診療所」（公立南三陸診療所）として運営を継続しました。

さらに、1年後には日本赤十字社の支援を受け、仮設診療所は役場仮庁舎前に新設移転。隣接する登米市は、入院加療が必要な患者のために「市立よねやま診療所」の一部を南三陸町に貸し出すことを決定。臨時の「公立志津川病院」が置かれ、医師3人、看護師30人、入院病床39床で運用が開始されたとのことでした。

そして、震災から4年8カ月が過ぎた平成27年11月25日、南三陸町に新しい病院が完成しました。

新しい建物の名前は「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」で、病院と地域の保健や福祉といった行政サービスの拠点が集約された施設となっています。

そして何よりも驚いたのは、施設の建設費55億8000万円のうち、約40%にあたる22億円もの支援が台湾紅十字から寄せられたことです。

人が大きな災難により苦しんでいる時にこそ、暖かい手が差し伸べられる事が、真の支援だと思います。

長 浜 市 議 会

【道の駅平泉世界遺産ガイダンスセンター・平泉文化遺産センターについて】

平泉世界遺産ガイダンスセンターは、平泉の価値を広く世界中に伝え、人類の共通の財産として後世へ継承するための拠点となる施設として、世界遺産の平泉や関連する遺跡の価値をわかりやすく紹介されています。

藤原三代の歴史や中尊寺周辺の歴史を含めた紹介として、映像や模型、展示物を様々な方法で魅力的に見せることと、当時の思いや生活をこと細かに紹介される配置となっていますが、とにかく大きな特徴は映像の迫力だと感じました。

平泉文化遺産センターですが、平泉の歴史や文化を、パネルや映像を駆使しわかりやすく紹介している無料の施設です。平泉の世界遺産関連の資料や、発掘調査で出土した多くの品などが展示されています。外国人の方にも、4か国語に対応した音声ガイドも用意されているとのことでした。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

【まち・ひと・しごと創造ステーションについて】

自分たちが考え、自分たちが納得して活用する施設、これからはぜひ公共の施設はこうあるべきだと感じました。施設の大きさや贅沢さではなく、ただ、町の難しい課題解決に向け、住民の思いのこもった場所で話し合う…。素晴らしいことだと思います。

【大川震災伝承館・南三陸 311 メモリアルについて】

ただただ、大きな被害にあわれた多くの皆さまに対し、心からのお悔やみ・お見舞いを感じずにはられません。

これらの施設を視察して考えることは、『もしもこんな災害が起こったら、私はどのような行動がとれるだろう』という不安です。しかし、これらの施設から学ぶことは、常に最善は何かを考え続けること。みんなで話し合うこと。それらが継続し続けることが大切だということです。災害は、いつどこでどのように起こるかわからない。ということを常に頭に置きながら、悔いのない行動がとれるよう、考え続けることが重要であり、決して準備に終わりは無いということを肝に銘じておくことだと考えます。

【南三陸病院の開院までの経緯について】

やはりつながりの重要性。それと、自分たちが求めていることを遠慮することなく相手をお願いする勇気。そういうことなんだと思います。

それにしても、イスラエルの医師団や台湾の方々のお優しさをあらためてお聞きし、次に私にできることがあれば、躊躇することなくやれることは全てをやりたいと思います。

【道の駅平泉世界遺産ガイダンスセンター・平泉文化遺産センターについて】

長浜市には多くの文化財をはじめとする、魅力ある遺産と歴史があります。特に、小谷城の野外博物館構想もあり、長浜に来られる歴史ファンのみならず、初めて来浜される方々に、長浜の多くの歴史をよりわかりやすく魅力的に伝えられる展示となることが重要であり、多

くの参考事例がこの二つの施設にはあると思いました。確かに費用のかけ方やコンセプトに違いはありますが、魅力ある展示とは、興味をそそるきめ細やかな説明ではないかと思ひます。